国指定史跡　原城跡　案内図

N

有馬氏時代には、重臣等の屋敷や役所などがあったとされている。島原の乱の時には大江源衛門以下3,500人が守備した。

原城の表玄関であり、島原の乱の時は布津・堂崎村など3,500人が三ノ丸とともに守備したところである。乱後ここの入り口には多くの一揆軍の首がさらされていたといわれている。

原城の中でも最も広大な地域をしめ有馬氏時代には、殿の御屋形があったといわれる。島原の乱の時には有馬口之津・加津佐・三会村の住民ら5,700人が守備した。

有馬時代には、天守閣があったとされるところである。島原の乱の時には、総大将天草四郎らがここに本陣をおき、部下の勇将と防戦の策を講じたところで、2,000人の守備軍と遊軍2,000人がいた。

寛永15年2月27日幕府軍の総攻撃のきっかけとなった所。佐賀鍋島勢が抜駆け、予定より1日早い総攻撃となり翌28日原城(一揆軍)は、陥落となった。

「本丸」と「鳩山出丸」の間に位置するこの平地は、有馬氏時代の乗馬の練習場であったといわれる。島原の乱当時は、人員の点呼がなされたと云われている場所で、築城当時の石垣が今も残る。

島原の乱当時は、千々石から口之津の住民1,400人で守備したところで、寛永15年2月21日、ここから一揆軍が黒田・寺沢の両陣に夜襲を決行した。

島原の乱当時は、天草各村勢2,000人が守備していたので、天草丸と名づけられた。

島原の乱後10年目に建てられた供養塔。建立者の鈴木重成は松平伊豆守の命で参戦、乱後民生安定のため代官を命じられた。禅僧百余人を集め読誦し、土地を清めた。天草四郎の実在を裏付ける文があり、当時の状況を認識させる貴重なものである。

アコウ街道
田尻門跡
原城温泉 真砂
天草四郎時貞の墓
池尻口門跡
佐分利九之丞の墓
蓮池跡
天草四郎像
原城本丸跡
枡形虎口跡
ほねかみ地蔵
空掘跡
内馬場
田町門跡
天草丸
二の丸
大手門跡
三の丸
板倉重昌の碑
二の丸出丸
鳩山出丸
浦田漁港
浦田観音
甬道跡
南有馬中学校
鈴木重成建立
供養碑
八幡神社
島原半島南部漁業協同組合
南有馬支所
南有馬漁港
原城幼稚園
原城オアシスセンター
R251
ガソリンスタンド
大江保育所
十八銀行
有馬支店
南島原市商工会
南有馬支所
親和銀行
有馬支店
南有馬小学校
陣場跡
病院
南島原市
南有馬庁舎
コンビニ
オランダ石火矢台跡
JA島原・雲仙
南有馬支店
ガソリンスタンド
至 島原市
至 原城文化センター
西望公園・記念館
南有馬郵便局
至 口之津

この一帯は島原の乱に参戦した幕府軍が陣をおいた所。名残りとして、陣場・築山といった地名が残る。

「信念にもゆる天草四郎」

原城本丸跡

島原の乱　1637-1638

慶長18（1613）年、幕府のキリシタン禁教令により、キリシタンに対する弾圧は熾烈を極め、島原半島・天草地方の迫害は壮絶なもので、これに加え島原城築城に伴う過酷な労役・重税を領民に課した。また、数年にわたる天災による凶作も重なり、窮乏のどん底に追い込まれ耐えかねた天草・島原の農民たちが各地で一揆を起こした。寛永14（1637）年12月総大将天草四郎時貞のもとに、キリシタンの信仰を団結のよりどころにした天草・島原の農民が合流、廃城と化した原の古城に立て籠もった。天草側からは、早崎瀬戸を渡り1万4千余人が、島原側では、ほとんどの領民2万3千余人と原の古城に合流し、一揆の数は総勢3万7千余人ともいわれた。幕府軍12万5千の軍勢を相手に、一揆勢は約3カ月の攻防戦を繰り返したすえ、翌寛永15（1638）年2月28日、一揆勢3万7千余人・幕府側1万数千人の死傷者を出し、終わりを告げた。島原の乱は、老幼男女の関係なく籠城したものは皆殺しという日本史上で最も悲惨な出来事であり、この後鎖国体制の確立に至ったとまでいわれる大乱であった。その後、領民がいなくなった領内には、強制移民令が出され各地（豊後・薩摩・小豆島など）から多くの移民がおこなわれ、現在に至っている。

Churches and Christian Sites in Nagasaki

長崎の教会群とキリスト教関連遺産を世界遺産へ

【名所めぐり】
陣場跡⇒浦田観音（甬道跡）
⇒大手門跡⇒板倉重昌の碑（三の丸）
⇒二の丸⇒ほねかみ地蔵⇒
原城本丸跡⇒田町門跡⇒
鈴木重成建立供養碑

施　設　　名所・旧跡
住宅街・商店街

南島原市